

カトリック瀬戸教会広報



2019年5月号

発行 毎月第一日曜日

〒483-0983 瀬戸市苗場町 66

カトリック瀬戸教会

(0561)82-7340

カトリック瀬戸教会

検索

秋田の聖母 その5

主任司祭 ニコラス・スワイアテック

7月28日に姉妹笹川の手痛みがなくなりました。また目撃されていた聖母像の御手の出血もなくなりました。一週間後1973年8月3日初金曜日に姉妹笹川が聖堂でロザリオを唱えた後、マリア様の御像の方から、また以前と同様になんとも言えない美しい声が聞こえてきました。「わたしの娘よ、わたしの修練女よ、主を愛し奉っていますか。主をお愛しするならわたしの話を聞きなさい。

これは大事なことです。そしてあなたの長上に告げなさい。世の多くの人々は主を悲しませております。わたしは主を慰める者を望んでおります。天の御父のお怒りをやめさせるために、罪人や忘恩者に代わって苦しみ、貧しさをもってこれを償う靈魂を御子と共に望んでおります。御父がこの世に対して怒りたもうておられることを知らせるために、御父は全人類の上に大なる罰を下そうとしておられます。御子と共に何度もそのお怒りを和らげるよう努めました。御子の十字架の苦しみ、御血を示して、御父をお慰めする至愛なる靈魂、その犠牲者となる集まりをささげて、お引止めしてきました。祈り、苦行、貧しさ、勇気ある犠牲的行為は、御父のお怒りを和らげることができます。あなたの会にもわたしはそれを望んでおります。貧しさを尊び、貧しさの中にあって多くの人々の忘恩、侮辱の償いのために回心して祈ってください。」

2か月後9月29日大天使聖ミカエルの記念日に姉妹笹川は一人の修道女と聖堂でロザリオを唱えました。第五玄義を唱えかけた時、聖母像全体が白く輝いているのに気づきました。御像に近づいてみると、マリア様の御手の傷がなくなっていました。(7月27日を最後

に御血が流れることはありませんでした。) その日の夕方に教会の晩の祈りを唱えた修道女たちは、マリア様の御像がピカピカ光って汗のようなものが流れ始めたことに気づきました。他の修道女にも知らせに行き、5人ほどで恐る恐る脱脂綿で御像をぬぐい始めました。拭いても拭いてもあとから流れ出て御像は汗びっしょりになっていました。御像の汗を拭いた綿からよい匂いがしました。ある修道女は「この世の最高の香水もこんなよい匂いはしない」と言いました。その芳香は10月15日まで続き、聖堂に入るたびに一同の心がおのずと天上へ引き上げられるようでした。のちにこの脱脂綿は秋田大学法医学教室で鑑定された結果、その付着物は人間の体液と認められました。それは疑いをさしはさむ余地のない科学的実証です。

10月13日ファティマの偉大な奇跡の日に修道女たちが外出して留守番を仰せつかった姉妹笹川はロザリオを唱えるために聖堂に行きました。祈り始めるとすぐ、マリア様の御像の方からあのなんとも言えない美しいお声が姉妹笹川の聞こえない耳に響いてきたのです。姉妹笹川は証言しています。「最初の呼びかけを聞いたとたんわたしはひれ伏して、全身を耳にして聴き入りました。」

「愛するわたしの娘よ、これからわたしの話すことをよく聞きなさい。そして、あなたの長上に告げなさい。前にも伝えたように、もし人々が悔い改めないなら、御父は全人類の上に大いなる罰を下そうとしておられます。--- (中略) --- 勇気をもってあなたの長上に告げてください。あなたの長上は、祈りと償いの業に励まねばならないことを一人ひとりに伝えて、熱心に祈るよう勧告するでしょうから--- (中略) ---あなたに声を通して伝えるのはこれが最後ですよ。これからはあなたに遣わされているもの(安田貞治神父)とあなたの長上に従いなさい。ロザリオの祈りをたくさん唱えてください。迫っている災難から助けることができるのはわたしだけです。わたしに寄りすぎる者は助けられるでしょう。」

聖母の木像が涙を流されたのは『マリア様のお告げ』を証明するためでした。

つづく